にも先にも無いが、わしかへ』『ヘーエ、あんたはんだす』『あんたはんだすと云ふような、やさしい事を云はずとおのれぢやと云ふたれ』『そんな事を云ふたら、向ふが怒るがな』『怒るさかいに喧嘩になるのや』『そんなら己れぢやぞウ』『何ぞ用か』『オイ早う後を云はんかい』『コラー嬶見たいな顔をして居るけれど、やーなア』『そうや〳〵』『おまはんの嬶やなかろう、やなア』『そうや〳〵』『何處ぞの稽古屋のお師匠はんでも、やなア』『一々俺に答へんと、向ふへ云ひんか』『けども間違ふたら、いかんさかいに尋ねてんねがな』『尋ねいでも好いがな、早う云はんかい』『マーその何ぢやい、マア急くな……』『誰も急いてエへんがな』『さうか……なア、今日の野崎詣りを、かこつけに、住の道邊りで酒しをでいためて、あとの胴空をボンと蹴たをそと思ふてけつかるけれども、祭りの太鼓でゾヨゾンぢやア、ベケレンスの阿呆よ……よオ』『おまいが阿呆やがな』『イヤ此女でやすか』『そのお女中でやす……』『阿呆……お女中てなこと云はずと、其の雌やと云ふたれ』『コラ其の雌やぞう』『兎みたいに云いやがるね……是れは稽古屋のお師匠はんでも何でもおまへん、私のれつきとした女房でやす……』『ソレは仲の好い事で……』『オイそんな事を云ふたら喧嘩が敗けやがな、嬶なら嬶にしといて遣るが、粹て好かれたと云ふ、仲ぢやなかろう、女の親に金の貸しがあつて、金の抵當に連れて歸へつたのやろう、其證據にビンシャン〳〵して居る毎晩冷たい尻を抱かされて居るのやろオ、其くらい冷たい尻が抱きたければ横堀の奥美町へ行て、水壺を買ふて來て抱いて寢よ、派手で立派で冷とうて好いはい、と云ふてやり』『だん〳〵むつかしなるナア、ヤイコラ嬶なら嬶にしておいてやるが』『ヘエ、して貰はいでも、私の嬶ぢや』『ソレはまあ、あんさんお仕合せな方で』『何をお辭儀をして居るね、敗けやがな』『アソー何や

粹て好かれたと云ふような、仲やない親の内に金の貸が有つて、金のかたに連れて歸つたんやろう、其證據にビンシャン〳〵仕て居る、毎晩冷たい尻を抱かされてけつかるのやろ、其位ひ冷たい尻が抱きたければ、水壺の奥美町へ行て横堀を買ふて來い』『それはあーちやこつちやや』『其のあツちやこツちやを臺所へ据て置け、派手で立派で冷たうて寒氷り〳〵』『イヤ大きに、私は其樣な、不品行な事は仕ません、是れには、仲人、媒酌人があつて、婚禮の晩には、私が黑に麻の上下、彼女が白無垢に綿帽子で、媒酌人が――高砂やと謠を謠ふて貰ふた嬶でやす』『コレ其こ退け喧嘩が敗けになる、コラ……うかめない、馬の糞を踏んで居るぞウ……』『どこに……イ』『アハ……嘘ぢやワイ、阿呆よ……是れで此方が勝つたのや』『馬の糞を踏んでると云ふたら勝か』『そうや無い、馬の糞を踏んでると云ふたら謠でどこにと探したから、其れでこちらが勝になつたのや』『アヽそうか、そんなら私も遣つたら、後から行く奴、馬の糞を踏んでるぞ……』『踏んだら何うした……』『アヽ恐……恐い奴やなア』『阿呆やなア、直に糞踏んでると云ふても、誰がほんまにするもんかいなア、ヂツと立て居るがな、何とか云はんとこつちが敗けになるがな』『どないに云ふのや』『何で糞を踏んだと尋ねて遣れ』『コラ何で糞踏やがつた』『他の糞なら踏まんが馬の糞やで承知で踏んだんぢやい、それがどうした』『清やん馬の糞やで踏んだんやと、馬の糞を踏むとなんぞになるのやろかな』『ソンナ事を私しに尋ねんと、彼奴に聞いたれ』『馬の糞踏むとなんぞになるねやろかな』『馬の糞踏むと丈が高うなるわい』『清やん馬の糞を踏むと丈が高うなると、こんな事心得ごとやなア』『そんな事感心すない、云ふたれ、そないに丈が高うて、まだ高うなりたいか、入日の影法師、半鐘盗人、燈明臺の油注し、獨活の大木、ヒョロ長、ノツポー